

伊藤俊一（監）、久保田健太、隈元庸夫（編）

PT・OTのための測定評価 DVD Series 7 片麻痺機能検査・協調性検査—症例収録

渡 邊 誠
(北里大学, 作業療法士)



測定と評価は、PT・OTにとって絶えず問われる医療技術の一つである。測定の技術にはその正確性と再現性が、そして測定結果の判断にはその妥当性と信頼性が重要視される。中枢神経系障害、特に脳血管障害の運動機能評価に焦点を当てた場合、初学者としては評価の実施手順ないしは対象者が示す身体的反応をどのように判断するとよいか悩む場面に遭遇することがあるだろう。神経機能の診断学として数多くの成書があるが、評価の実践にポイントを置いたものはまだ少ない。そこで、手元に置き参照したいのが本書である。

本書は、『PT・OTのための測定評価 DVD Series』のシリーズ最新刊「片麻痺機能検査・協調性検査」として上梓されたものである。これまでのシリーズ全体の構成は、ROM測定、形態測定・感覚検査・反射検査、MMT、バランス評価、整形外科的検査から成って

おり、本書でシリーズ7巻目となる。具体的な内容を簡単に紹介しておきたい。第1章はブルンストローム片麻痺機能検査であり、片麻痺運動機能評価としての基本的視点をこの章で学ぶことができるだろう。第2章は協調性検査であり、協調障害における神経徴候の初歩的検査から小脳系の運動失調、測定障害まで幅広く収載されている。

また、本シリーズの特徴でもあり、魅力でもあるのが付属するDVDである。本での図表や説明を基に学習するだけでなく、どのようにオリエンテーションを実施し、どのような反応を誘発する必要があるか、その実施および観察の視点をDVDはわかりやすく教えてくれる。脳血管障害後の運動機能評価として、知識のみならず、評価実践のコツがわかりやすく整理されており、動画を通じて臨床実践における評価能力を高めていくには本シリーズは最適なもの

いえるだろう。

さらに、DVDに収録されている症例をどのように活用できるだろうか。その活用方法は、自己学習、オスキー（OSCE）学習、臨床実習指導の指導資料、臨床現場での研修資料等さまざまな。養成校学生、新人の療法士のみならず、教育関係者、臨床実習指導者にあってもその内容を十分に吟味していただきたい。標準化された評価を指導するに際し、動作観察からいかに動作障害の理解を導くことが可能となるか、あらためてその評価技術の水準と臨床推論の道筋を考える機会を設けてみることも必要かもしれない。

〔B5判 140頁 3,800円＋税〕
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357